

令和7年度 韓国慶尚北道・嶺南大学韓国語研修プログラム

11月12月1月 報告書

広島大学 横峯果苗

ご挨拶

大邱では雪こそ降らないものの、冬らしい寒い日が続いております。広島はいかがお過ごしでしょうか。

改めまして、広島大学教育学部教育学系コース4年の横峯果苗と申します。現在、「令和7年度 韓国慶尚北道・嶺南大学韓国語研修プログラム」に広島県代表として参加し、嶺南大学韓国語教育院にて日々韓国語を学んでおります。11月中旬に1級を修了し、約2週間の休暇を経て、12月より2級に在籍しております。

さて、前回は9月・10月についての報告書を提出させていただきました。今回は11月から1月前半までの大邱での暮らしについてご報告いたします。9月10月の頃に比べ、韓国での生活にも慣れてきた私の視点から「生活の場としての韓国」をお伝えできれば幸いです。

報告

○嶺南大学韓国語教育院での生活

9月から在籍していた1級を、11月中旬に無事修了することができました。学び始めた頃はハングルの読み書きもままならず、街中の標識の意味が分からなかったり、飲食店での注文が思うようにできなかつたりすることも多くありました。しかし、1級修了の頃には基本的な単語を習得し、街中で標識を理解して不自由なく移動できるようになったり、飲食店でも注文に加えて簡単な会話を楽めるようになるなど、大きな成長を感じることができました。また、1級修了時には終了証に加えて皆勤賞と優秀者奨学金をいただくことができ、自身の成長と努力が形になったことに充実感を覚えました。12月からは2級に進級し、引き続き単語や文法を学んでおります。2級では、1級に比べ、より実用的な語彙や細かいニュアンスを伴う文法が多く、韓国語表現に深みが増していくような学びが多いと感じております。韓国語は日本語と似ている部分が多いとよく言われます。たしかに漢字由来の単語には日本語と類似したものも多く、親近感を持ちながら学習を進めることができます。しかしその一方で、日本語とは異なる観点から整理された文法や、同じ表現でも複数の意味をもつ語などに出会い、面白さを感じると同時に韓国語特有の難しさも実感するようになりました。それでも、授業や日常生活の会話の中でこうした細かいニュアンスを表現できたときには、大きな達成感と、より自分らしく思いを伝えられるようになった喜びを感じます。また、2級でも1級同様、座学に加えて韓国文化体験の機会もありました。今回のテーマは「캘리그라피 달력 만들기」で、カレンダー作りを通してハングルカリグラフィーを体験しました。「ハングルカリグラフィーは、伝統のハングル書道を現代風にアレンジし、自由に美しく文字を表現したアート書道のこと」です。(参考：https://www.dentou-bunka.net/blog/shodo_hangul/) 私たちは、プロの先生方の指導のもと、カレンダーの台紙に好きな言葉や文章をハングルで書き、シールや絵でデコレーションしました。普段書くハングルとは異なり、バランスや筆の使い方次第で可愛い字体にも、かっこいい字体にもなり、ハングルの多様な表現に触れることができました。ここで、私が実際にカレンダーに選んだ好きな韓国語をご紹介します。それは



「맛있게 드세요」です。日本語では「召し上がれ」と訳されますが、日本でこの言葉に日常的に出会う機会はあまり多くないように感じます。実際、私が飲食店でアルバイトをしていたときも、お客様に「召し上がれ」と声を掛ける場面はほとんどありませんでした。一方で、韓国で生活していると、カフェで飲み物を受け取るときや飲食店で食べ物が運ばれてきたときなど、食に関するさまざまな場面で「맛있게 드세요」という言葉に出会います。使う人にとっては何気ない一言かもしれませんが、私には、食事をする相手を思いやり、温かな気持ちを添える素敵な言葉に感じられます。

○学校外での韓国生活

今回は、定期的に通っている大邱のブックカフェ「大邱ハル」についてご紹介いたします。大邱ハルは、嶺南大学教員の朴承柱先生が代表として開設されたブックカフェです。コーヒーや読書を楽しめる憩いの場であると同時に、「日韓交流」のプラットフォームとして多様な活動が展開されている点が大きな魅力です。店内では日韓に関する書籍に触れることができるほか、日本語勉強会が定期的で開催されており、日本への留学やワーキングホリデーを目指して準備を進める方々の姿を見られます。ここでは、私が実際に参加した活動について詳しくご紹介いたします。1つ目は日本語勉強会です。週に1度開催されており、初級と上級の2つのクラスに分かれて学習が行われています。初級クラスではNHK「やさしいことばニュース」、上級では日本のニュース番組を題材として、日本語表現だけでなく、日本の社会や文化についても理解を深めることができます。私自身も参加者の皆さんにとって何らかの刺激になればとの思いから輪に加わり、共に会話を楽



しんでおります。2つ目は、日韓中3か国合同オペラ「The Heart of the East, One Stage」を鑑賞する機会をいただいたことです。大邱オペラハウスにおいて、日本・韓国・中国それぞれからプロのオペラ歌手が集い、公演が行われました。演者ごとに異なる音色や表現方法があり、オペラならではの豊かな感情表現を味わうことができました。国籍を超えて3か国の人々が同じ音楽を分かち合う空間には強い一体感があり、深い感動を覚えました。特に最終演目では、韓国の伝統歌謡「アリラン」の全員で演奏され、3か国の演奏者が韓国語で歌うその響きは大変美しく、今後もこのような交流が続いていくことを願わずにはいられない時間となりました。また、11月後半にあった約2週間の休暇期間を利用し、大邱からバスで1時間ほどの場所にある陝川原爆資料館を訪問しました。日本経済新聞によれば、陝川には在韓被爆者約1800人のうち400人超が居住しており、「韓国のヒロシマ」とも呼ばれているとのこと

です。資料館では職員の方々に温かく迎えていただき、展示資料を一つ一つ丁寧に説明いただきながら見学しました。原爆被害の実態を伝える資料に加え、被爆者支援を求めて現在までのような運動が展開されてきたのか、また、被爆2世3世の方々の声など、陝川を拠点とした国際的な取り組みの歩みについて知ることができました。資料館に隣接する施設では、被爆者の方が生活されており、その食堂で昼食もご提供いただきました。私は大学進学を機に広島に住み、平和講義の受講や広島平和記念資料館への訪問を重ねる中で、原爆についての理解を深めてまいりました。広島平和記念資料館を訪れるたびに感じるのは、原爆がもたらした被害のあまりの甚大さと非人道性です。これらは考える余地もありません。無差別に多くの



の人々の命が奪われた事実は、決して忘れてはならない歴史であると改めて痛感します。同時に、被害に苦しむ方々が現在もなお存在していること、そしてその被害は日本国内にとどまらず、当時広島に暮らしていた陝川の人々をはじめとする外国人にも及んでいることを、私たちはより深く認識する必要があると感じました。広島県代表としての留学期間における私の歩みは小さなものかもしれませんが、しかし、広島と同じ傷を負った人びとと出会い、被爆地・広島や長崎の意味を

あらためて見つめ直すことができたこの経験は、私にとって極めて意義深い時間となりました。

最後に

早いもので留学期間も残り1か月となりました。ここまで充実した日々を過ごすことができているのも、ひとえに広島県をはじめ多くの皆様のご支援があったからであると強く実感しております。無事帰国し、留学での学びを広島で還元できるよう、残りの1か月も1日1日を大切に過ごしてまいります。ここまでお読みいただきありがとうございました。末筆ながら、季節の変わり目につき、どうぞお体ご自愛ください。